琵琶湖博物館 フィールドレポーター

掲 示 板

2017 年度第 3 号 通巻第89号 2017 年 12 月 16 日

撮影：福岡敏雄さん

交流会、新しい調査の準備、カイツブリ調査のまとめと充実している秋冬

12月になって朝夕の寒さが際立ってきましたが、皆さんいかがお過ごしですか。

10月はアキアカネの里山調査に始まり、11月は南志賀の歴史を考える会（ヤッサシイ会）との交流会や国際協力機構（JICA）の研修生との交流会と、行事が盛りだくさんな秋でした。ヤッサシイ会との交流会では、その類稀な技術を駆使した工芸品を間近で見ることができました。残念ながら、JICA研修生との交流会では時間がなかなかとれず、お菓子を囲んで少し話をするだけとなってしまいましたが、琵琶湖博物館の目指す「交流の場としての博物館」をJICA研修生が実感していただけていたら、うれしく思います。交流会の様子については 2～3ページを、アキアカネの里山調査については、4、5ページをご覧下さい。秋の様々なイベントの合間に、新しいフィールドレポーター調査について話を進めてきました。そして、秋の目まぐるしいスケジュールの合間を縫って、掲示板通巻89号と便りを作成しました。この秋は、スタッフとともに多くの出会いに恵まれ、経験を共有できたことをうれしく思います。

さて、企画展示「小さな生物の素敵な旅」は約 5万人の方々に来館いただき、盛況のうちに終わりました。これから来年度の企画展に向け、担当学芸員が動き始めています。また、来年7月の第2期のリニューアルに向けて、樹冠トレイルの工事が始まりました。そのため、10月中旬から屋外展示の一部が通行禁止になり、生活実験工房には少し遠回りしていただかなければならなくなりました。ご不便をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。さらに、12月からは館内各所も閉鎖され、いよいよ本格的に工事が始まります。前回の掲示板でもお知らせしましたが、第2期のリニューアルはこれまで当館が大切にしてきた「誰もが楽しめる空間」をさらに推し進めます。どうぞ、ご期待下さい。

フィールドレポーター（FR）担当学芸員　　大槻 達郎

も く じ

	巻頭	大槻達郎	P１	６	ヒガンバナ	湖西の住人	P８
１	ヤッサシイ会さんとの交流会	中野敬二	P２		コラム	ＦＲＳ	P８
２	秋のアキアカネ調査報告	椛島昭紘	P４	７	ＪＩＣＡ研修報告	中野敬二	P９
３	草津のアキアカネ報告	椛島昭紘	P５	８	２０１７年第２回ＦＲ調査案内	松村順子	P10
４	カイツブリ in autumn	ﾌｧｰﾌﾞﾙおばさん	P６	10	ホムページがリニューアルされました	大槻達郎	P11
５	恐竜館でジュラ紀の石灰石に対面	津田國史	P７		お知らせ	ＦＲＳ	P12

1.　ヤッサシイ会さんとの交流会

文 フィールドレポータースタッフ（FRS）　　中野敬二
写真　FR 担当学芸員　大槻達郎

掲示板 88 号で紹介させてもらったヤッサシイ会「正式名称：南滋賀村の歴史を学ぶ会」との交流会が実現しました。

2017 年 11 月４日（土）博物館実験工房に 12 名のメンバーが来館されました。

当方はレポータースタッフ６名で会場準備を行いお迎えしました。全体進行を大槻学芸員が受け持って下さり大いに盛り上がり、有意義な交流会となりました。

予定ではお互いの活動内容を中心にして話し合いを進めた後、びわ博フェスで大好評だった創作バッタの作り方の指導を受け、その後館内をゆっくり見学してもらうことになっていましたが、お茶をお菓子の交流で、想定以上に話が盛り上がり予定時間をオーバーしました。

そんな関係で、バッタの創作実習は、後日ヤッサシイ会さんの工房に伺って行うということになりました。

予定変更しなければならなかった理由は、とにかくヤッサシイ会の活動が、広く、深く、中身が濃い上に皆さんお話が上手だったことです。前回訪問レポートで一部紹介しましたが会員皆様全部の行動力が半端でないのです。南滋賀の歴史について、地域における“春夏秋冬”の行事に学校の先生まで巻き込んでエネルギッシュな活動を実践されている話がつぎからつぎから出てきます。スタッフ一同感心するばかりでした。すごいという気持ちでいっぱいでした。

すごい行動力は十分に解りましたがその原点がグランドゴルフであるのは想定外でした。

聞けばこちらも半端なものでなく、この話だけでもう一回交流会が出来るほどの熱の入れようで、なるほど体力と結束力の源はここにありと合点いたしました。

それでも、やはり活動の根幹にあるのは竹細工技術と心底からおもえたのは、「風塵・雷神」を彫り込んだ竹灯籠一対を持参してくださり拝見しました時です。絵を描くだけでも大変なのに、扱いの難しい丸い竹に彫りを入れ、細い線や曲線を自在に彫り込み仕上げた完成度の高い作品は見事と云うほかありません。まさに芸術品としか云いようのない作品をみせてもらいました。

今回の催しにあたり、生活実験工房前でとれた新米を、工房担当の中川さんがおいしく炊いて下さり、スタッフが　おにぎりを作り、特製のお漬け物を添えて、全員で頂きました。

参加者の平均年齢が正直な所ところかなり行っておりましたので、古い農機具や懐かしい用具の数々に囲まれた工房には何の違和感なく溶け込めます。すっかり昭和の昔に戻ったようになり、「幼い頃（ん、若い頃、かな？）を懐かしむ会」といった一面もでたような良い雰囲気の交流が出来たと思います。

最後は予定どおり博物館の展示室を見てもらいました。

初めての方もいらっしゃったようで、「ここの博物館結構おおきんやネエ」「たくさんの魚やネエ」と興味深く見学して下さいました。さすが滋賀県地元の方で魚の種類は見ただけで分かる物が多く解説の必要ない場面もありました。

もっとも魚や貝の水槽の前では小さい頃の水遊びの思い出から、「ぼてじゃこ」などの説明のところでは「これや、これや」なんていうほほえましい姿になります。「イサザは昔よう食べたけど最近食べんなー、まだ取ってはるの？」とか「こないだ久しぶりにモロコ焼いて食べた」というような姿、形より食品としての話にスライドする場面もおおく、若い人たちの見学風景と違う、熟年層の見学感想になっているのを、なるほどと納得出来る場面もありました。

予定が大幅に変更になりましたが、交流が十分に出来、時間が足りなくなったという嬉しい変更でしたので今日の催しは大成功とさせていただきます。これを機会に末永く交流を続けましょうと云う締めの言葉が双方から出てきたのは望外の幸せでした。楽しい交流の場を持って頂きましたヤッサシイ会の皆さんに心からお礼を申し上げます。

2．2017年度　秋のアキアカネ調査報告

ー稲刈り後の田んぼの周りで赤トンボを調べましたー

文・写真　FRS　椛島昭紘

びわ湖バレイで８月 10 日にマーキングしたアキアカネが秋になって、山を降りて田んぼや野原などで見つかるかもしれません。もし見つかったら大トピックスです。

10 月７（土）に秋のトンボ調査を計画しましたが、あいにく雨模様で中止しました。その代り 10 月９日（祝日）に有志で調査しました。場所は昨年と同じ大津市伊香立南庄町です。ここでの調査は３年目になりますが、びわ湖バレイから南の方に約８ｋｍ（平面地図上）離れている所でアキアカネが多く飛んでいる地域です。マークされたトンボが飛んでくるかも知れません。この日は天気に恵まれ６名が参加して、予定通り約１時間調査した結果、昨年より止まっている数が少ない様に思われましたが合計は 568 頭でした。

更に 10 日に１名調査して 141 頭、18 日に１名調査して 191 頭、合計 870 頭が今年の調査結果です。田んぼの回りの柵やロープ、池の周囲の鉄条網、草木の枝先に止まっているトンボは傍に近づいても逃げないので、手に取るように観察できました。その結果は右表にまとめました。多く見つかりましたが、マークの付いたアキアカネは見つかりませんでした。残念です。

表．今年の結果

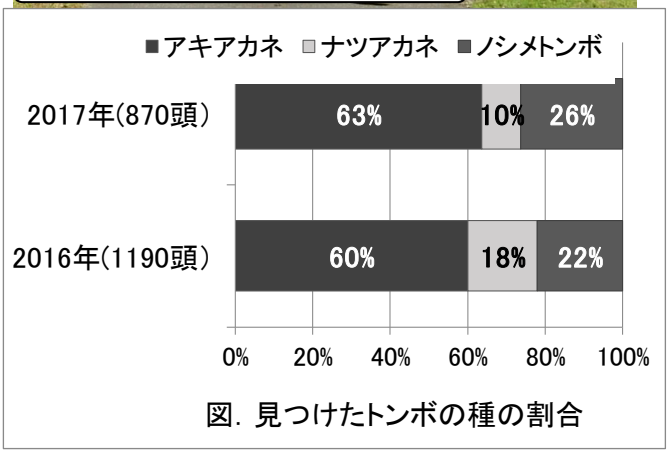
調査日と時刻 調査は約１時間	調査者	小計（頭）
10月９日 13 時 30 分～	６名	568
10月10日 11 時00分～	１名	141
10月18日 12 時40分～	１名	191
合計	８名	870

昨年度と比較した結果は図の通りです。アキアカネは 63%で昨年とほぼ同じ割合ですが、ナツアカネが減って、ノシメトンボの割合が少し多く見つかりました。

フィールドレポーターの皆さんへ、今年はもう見ることできませんが、来年、自宅近くでマークの付いたアキアカネが見つかるかも知れません。トンボ観察をお願いします。

融（とおる）神社の参道を出て..

草津市内でアキアカネ観察



図．見つけたトンボの種の割合

3. 草津市内でアキアカネ観察

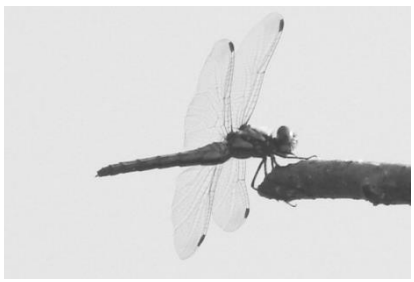
文・写真　草津市　椛島昭紘

我が家は JR 草津駅東口側の中山道沿いです。近くの旧草津川沿いから南方向の草津川間の約 1.5km、国道 1 号線から西に約 2km の県道草津守山線の範囲でアキアカネが集まっている所を見つけて観察しました。この地域は市街地です。15 年前後位から開発が進んでいる処です。

アキアカネは少ないだろうと予測しながら観察して、図 1 の通り、集まっている場所６ヶ所を見つけました。ほぼ旧草津川の周囲や池の周りでした。10 月中旬から 11 月上旬の間、午後の晴れた風が弱い時に調べました。日が当たっている木の枝、垣根、石やコンクリートの上に止まっているトンボをデジカメで撮影して種と数を確認しました。観察時間は 15 分位です。ほとんど止まっているので時間の影響は少ないと考えています。その結果は表 1 です。観察した日によって数が変動しますがこれは風の方向や強さが影響しているのではないかと考えています。市街地周辺でも多くはありませんが見つかります。観察数の最も少ない頓連池横の伯母川は 2013 年 11 月 8 日観察では飛んでいる数を約 15 分間で 50 頭位観察した処ですが 3 年前から減少してしまいました。

さて、びわ湖バレイでマークしたアキアカネの観察ですが、今回の観察場所はびわ湖バレイから南南東方向に約 25km 離れていて、北西の風に乗って飛来するかも知れないという淡い期待もむなしく、合計 152 頭見つけましたがマーク付トンボは見つかりませんでした。残念でした。

図１．調査場所



観察場所	図記号	１０月				１１月	
		11 日	14 日	26 日	31 日	1 日	9 日
de 愛ひろば公園	A	0	3	12	1	10	0
旧草津川西草津	B	10	10	0	0	5	0
旧草津川野村	C	1	1	－	0	10	0
西大路公園	D	20	17	6	0	5	0
伯母川頓連池横	E	3	－	2	0	0	0
野池周辺	F	4	－	13	14	5	0

表１．調査結果

4. カイツブリ　in Autumn

ファーブルおばさん

カイツブリってかわいいものと思っていましたが、夏に調査をして、意外にキリリとして精悍な顔つきをしているのだなあと認識を新たにしました。調査では首の上部が赤色をしていることを頼りにカイツブリを探したのですが、赤い首は夏羽の色だとか。冬羽はどんな色で、いつ頃生え替わるのだろうかと思って、カイツブリがたくさんいた高島市の松ノ木内湖へ、９月 28 日に観察に行きました。

松ノ木内湖は長辺が 500m 以上ある大きな内湖で、大きなヨシ帯もあり、7 月には親鳥 10 羽、子ども 8 羽が見られました。それから 2 ケ月以上たってヒナも大きくなっているので、親鳥と子どもの区別が難しいかなと思われましたが、実際、遠くにいた 4 羽（別々の場所にいて単独行動をしていた）は双眼鏡で観てカイツブリであることはわかっても、それ以上の区別はできませんでした。以下、当日の観察記録です。

○　親 1 羽と子ども 1 羽の親子連れでは、親の首は赤く、子ども（親と同じくらいのサイズになっていた）は縦縞模様が見られました。

○　成鳥（口ばしの近くに黄白斑がある）は上記の他に 5 羽見られ、そのうちの 3 羽は首の色が赤く、夏羽の状態でした。あとの 2 羽は赤色が薄れて薄茶色になり、これが冬羽の色かなあと思いました。

○　親から離れ、独立行動をしている子どもが 3 羽いました。口もとの黄白斑がないので子どもと判断したのですが、羽の色は全体的に薄茶色で、縦縞模様はあるような無いような感じでした。それぞれに潜って餌をとっていましたが、1 羽が他の 1 羽に向かって低空飛行で接近する場面がありました。ケンカではなく、遊んでいるような感じで、成鳥よりも飛び上がりの最初が軽やかに見えました。もう、りっぱに飛べるようです。

結局、観察された成鳥 6 羽のうち 4 羽は夏羽のまま、2 羽は冬羽に移行でした。ということは、まだ夏羽が残るけれども、ぼちぼち冬羽への換羽が始まる時期と解されます。子育て中の親鳥が夏羽だったのは、子育てを終えてから冠羽すると考えてもよいのでしょうか？

10 月に入ると冬鳥のカモ類が少しずつ増えてくると思います。人間もぼちぼち冬支度ですが、カイツブリはどこでどのように冬を過ごすのでしょうね。

5. 恐竜館でジュラ紀の石灰石に対面

ＦＲＳ　津田　國史

2017 年 11 月 28 日、福井県立恐竜博物館に行って来た。
朝 6 時に乗った米原行きＪＲからは、朝日が昇る前の鈴鹿の稜線がくっきり見えるが、手前の湖東の街区は暁の闇の中で、人家の屋根がそれと知れるくらいで詳細は判別できない。
米原を出たあたりでようやく陽が昇り、湖北はおだやかな朝霞に包まれていた。

昨年探索した中池見湿地を、敦賀駅を出たＪＲから探したが、どの辺りだったか定かでないのは、山容を充分に記憶できてない証拠だ。ほどなく長い北陸トンネルに入った。後刻調べて、このトンネルに入る直前の、北陸線の北側に中池見湿地があると知る。

9 時前、福井から乗った「えちぜん鉄道」の 2 両編成電車は、やがて九頭竜川に沿って嶺北地域をゆっくり東に走る。これから向かう山の端から、真っ白な白山が頭を覗かせ、手前の峰々にはうっすら雪が散らばっていた。九頭竜川の河川敷の様子が楽しく、変化する植生や地形から目を離せずにいた。電車が低い山の端を廻った時、現れたまばらな白い物が残雪とは気付かず、白い農薬をふんだんに撒いたとばかり思っていた。
山の雪は承知だが、この九頭竜川流域にまで、もう雪があるとは思いもしなかったのだ。
駅で、えちぜん鉄道の人に聞いたら、数日前に降った雪だとのこと。これは例年並みと言われ、私は福井県でも嶺北・奥越地域の豪雪認識が全く欠けていたことを恥じた。

県立恐竜博物館は、長尾山の西端に、銀色の巨大ダンゴムシが蹲る（うずくまる）様子で現れた。黒川紀章の設計で、入ったら直ぐ下３階までふき抜けの大楕円だ。楕円環の底に向かって、そのど真ん中を一本の長いエースカレーターで、いっきに降りるのはなんとも爽快だった。

ジュラ紀の石灰石は、ここでは小生物の摺り跡化石として展示されていた。
私はこの、ドイツ・ゾルンホーヘン・アルトミユル川・ジュラ紀産の、炭酸カルシウム 99%の石灰石を使っていた 60 年前に思いを巡らせていた。
オフセット平版印刷の刷版であり、この石版石に文字・写真・絵を転写製版していたのだった。

世界で、ドイツ・ゾルンホーヘン・ジュラ紀層からしか産しない、この最高品質の貴重な石版石面に化石が現れ（石版石面の模様はすべてインキを受けて印刷されるため、印刷用版石には使えない）、異物混入の石版として容赦なく廃棄処分にしたのを悔いていたのだった。“いまその写真でもあれば…”と嘆く学芸員は、スマホ世代の人であった。
私はこの恐竜館で、念願のドイツ・ゾルンホーヘン・ジュラ紀層の石灰石に対面でき、当時、適切に処理できなかった化石が、何であったかを探る手掛かりを得た思いで、奥越・勝山で銀色に輝くダンゴムシにさよならをしたのである。

6. ヒガンバナ

湖西の住人

ヒガンバナを見ると、秋が来たなあと思います。でもあんなに目立つ花なのに、茎が伸びているだけの段階では全く気がつきません。

９月 15 日に川べりを歩きました。ヒガンバナの緑色の茎が多数、土手の草むらからニョキニョキと出ていて、すでに花の開いているものがわずかにありました。一つ見つけると、別の場所にある茎や花が次々と目に入るのが不思議です。そして、いつも車で通っている道なのに、時速 40 ㎞運転では、花を敷き詰めた状態になって初めて気がつくことが悲しいです。ヒガンバナは秋に茎と花をつけ、花が終わったのちの晩秋に葉っぱだけを出すそうです。でも、この場所で冬にヒガンバナの葉に気づくのは、私にとって至難の業、無理です。

彼岸ごろから咲くのでヒガンバナというそうですが、私が見かけた９月 15 日はお彼岸より１週間ほど早いですよね。この２、３日で急に涼しくなったので少し早く咲いたのかなと思って、和歌山に住む子どもに聞いてみました。すると「和歌山では長袖が必要ないほど暑いけれど、ヒガンバナは咲き始めている」とのことでした。温度（地温）の関係ではないみたいですね。皆さんのお住いの地域では今年、いつ頃からヒガンバナが見られましたか？

画・イラストや

コラム

雪がふるまえのはなし

「ゆきおこし」という言葉をよく聞きます。ものすごく寒くて雪になりそうなのにそうでなく、鳴くようなゴオーッという北風が吹いて初めて雪になると教えられてきました。滋賀県のご当地言葉かなと思っていましたが、お隣の京都府下の方でも使われており、かなり広域で使われている日常語だと知りました。

長浜あたりでは“伊吹山が３回雪をかぶったら里も雪”と言い伝えられていると聞きます。このような言い回しの言葉は各所にあるのではないでしょうか。

そして巻頭で紹介した「雪虫」です。

真っ白なフワッとした塊を身にまとった小さな虫で、わたしもその昔“わたやのつかい”といって近所の子供仲間で追いかけてつかまえていました。「これがきたら雪がふるんやで」と、近所のおばさんに教えてもらったガキの頃（幼少のころ）を思い出します。その後も、毎年見つけて季節を感じています。

若い人はともかく、かなり年配と思われる方も知らない人が多いのは意外な気がしています。この雪虫を「しろばんば」という映画をみて知ったとか、確認したとか言ええる方は、多分昭和も早い時期生まれで、シネマ愛好家だった人でしょう。

（写真提供・福岡敏雄さん、文・FRS 中野敬二）

7. ＪＩＣＡ研修報告

写真・文　ＦＲＳ中野敬二

ＪＩＣＡ研修生との交流イベントに、フィールドレポーターにも参加要請があり、スタッフの前田雅子さんが　2015 年タンポポ調査の内容を中心テーマにしてプレゼンテーションを行いました。

11 月 16 日（土）午後３時 30 分から約 30 分間、内容は滋賀県内で見られるタンポポとその種類を、外来種と在来種の見分け方から始まり、外来種とその雑種が増えているなど、レポーターが調べた結果からわかったことを説明され、また、フィールドレポーター活動のおもしろさや意義についても発表されました。

研修会場風景

ＪＩＣＡ研修にはおなじみの通訳さんがソツなく流暢に解説してくださり、内容は十分に伝わったことと思います。

質問タイムでは、外来種は何の為に持ち込まれましたかといった一般的なものもありましたが、雑種の発生は無いのかといった高度な質問もあってさすがＪＩＣＡ研修と感心する場面もありました。レポータースタッフは６名同席しましたが、時間の都合上個人的な交流が出来ずやや物足りなさを感じました。

シュロの創作バッタを撮影する研修生

ＪＩＣＡ研修生は、生活実験工房での純日本的な空間は興味津々と見ておられましたが、座っての研修注は結構カラダの置き所が無く、不自由な感じにも見えました。どんな感想だったのでしょう。

8. 2017 年度　第２回フィールドレポーター調査

「橋の名前を調べましょう」参加のご案内

FRS　松村順子

琵琶湖周辺の数百本もの大小さまざまな河川には、大小さまざまな橋がかけられており、名前のある橋、無い橋、形も古さも様々あり、随分多くの橋が架けられていることに驚かされます。しかし、当たり前の存在となり、あまり意識されていない橋も多いのかもしれません。

そこで、今回のフィールドレポーター調査では、滋賀県の河川のどこに、どのような名前の橋があるのか、地域で身近な河川にかかる橋について、橋の名を中心に自由な発想で調べてみたいと思います。たとえば、河川を中心に河口などの基点から上流までを歩いて調べたり、あるいは、１本の道路に沿って、その道にかかる橋を順番に調べることも面白いと思います。調査票にしたがい、橋の名前やそれぞれの特徴、由来などを調べて下さい。橋を見つけて、気が付いたこと、面白いと思ったことをさらに詳しく調べたり、興味を広げてみましょう。

調査票と橋の位置をしめす地図をお送りいたします。

調査期間は、2017 年 12 月から 2018 年４月 10 日までとし、それまでに調査票の提出をお願いいたします。

（調査例）　半田橋（千丈川）

和田一号橋（高橋川）

唐橋（瀬田川）

名前は、橋の支柱につけられている橋名板などで分かります。

（詳細は、調査票で説明いたします）

フィールドレポーター調査勉強会のお知らせ

調査「橋の名前を調べましょう」が始まります。この調査に向けて、興味と感心を高めていただくための勉強をします。学芸員による橋についての解説、調査についての説明もいたします。また、普段出会うことが難しいレポーターの皆さんとの情報交換や交流もいたします。　　是非、ご参加ください。

日時：2018年 2月 3日（土）13：30～15：30
場所：琵琶湖博物館　セミナー室
対象：フィールドレポーターの皆様
今回の調査に関心のある方

7.　ホームページがリニューアルされました!!

FR 担当学芸員　大槻達郎

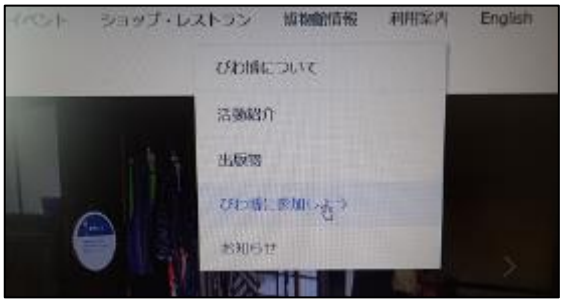
　みなさん、最近琵琶湖博物館のホームページをご覧になりましたか？実はホームページもリニューアルされているのです。以前のホームページと比べると、すっきりした印象なのではないでしょうか。イベントやリニューアルの情報等、タイムリーな話題がすぐ目に飛び込んできます。

　ホームページが新しくなって、「とても見やすくなった」や「新しい情報が一目で分かる」という声が聞こえる反面、「フィールドレポーターのページはどこにあるか分からない」という声も聞こえていました。そこで、これからホームページのたどり着き方をご紹介します。

1. ホームページに行く
インターネットの検索画面で
「琵琶湖博物館」と打ち込むか
http://www.biwahaku.jp/
と打ち込んでもらうと、
びわ博のホームページを見ることができます。

びわ博のホームページ　右上に「博物館情報」という項目があります。

2. 「びわ博に参加しよう」をクリック
右上の博物館情報にカーソルを合わせてもらうと、
いくつかの項目が開かれます。この中の
「びわ博に参加しよう」をクリックして下さい。



3. 「フィールドレポーター」をクリック
びわ博に参加しようのページの右側に見慣れたフィールドレポーターのアイコンをクリックして下さい。これでフィールドレポーターのページに行くことができます。

4. 「フィールドレポーター」のページ
新しいフィールドレポーターのページにたどり着けました。
掲示板やたより、調査票もここで見ることができます。
是非、参考になさって下さい。

10月～12月の活動報告

月	日	内　容	参加者	主な議題・活動
10月	７日（土）	里のアキアカネ調査・定例会	９名	気象不良の為中止。レポータースタッフ会議に切り替え、2017年２回目テーマ「橋」内容討議
	８日（日）	里のアキアカネ調査	２名	伊香立南庄町融神社周辺
	21日（土）	定例会	８名	①里のアキアカネ調査報告、②「橋」調査内容の具体的検討、③カイツブリ調査まとめの解析説明
11月	４日（土）	・ヤッサシイ会交流会・定例会	８名	①ヤッサシイ会（13名参加）相互の活動報告・意見交換。②ＦＲＳのヤッサシイ会訪問について
	18日（土）	JAICA研修会参加 定例会	６名	ＪＩＣＡ研修の席でＦＲ活動の説明（前田さん） 89号掲示板発行日程確認 2017年第２回調査「橋」調査内容検討
12月	２日（土）	定例会	９名	①2017年第１回調査「カイツブリ」だより発行 ②2017年第２回調査原案まとめ
	16日　（土）	定例会	７名	①2017年第２回調査資料発送 ②FR掲示板89号発送

H30年　１月～３月の活動予定

日　　時			内　　容	場　　所
１月	６日（土）	13：30～17：00	定例会	交流室
	20日（土）	13：30～17：00	定例会	交流室
２月	３日（土）	10：00～17：00	定例会・橋と川の勉強会	交流室
	17日（土）	13：30～17：00	定例会・研究発表会	交流室
３月	３日（土）	13：30～17：00	定例会	交流室
	17日（土）	13：30～17：00	定例会	交流室

定例会は原則として第１、第３土曜日の 13：30～17：00 に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学も大歓迎です。なお、予定が変更になる場合があります。詳細は、下記の電話・メールで、琵琶湖博物館フィールドレポーター係までお問い合わせください。

編　集　後　記

２度の交流会が開催され、色々学習をしました。レポート集計と２回目レポートの作成決定などで忙しい期間でした。今年もどうやら異常気象の連続で秋を通り越して一気に冬になったような気がします。例年より寒気が強いとの報道もあります。暖かく着込んで風邪などひかず健康にお過ごしください。　（担当・中野）

フィールドレポーター Field Reporter
LAKE BIWA MUSEUM
滋賀県立
琵琶湖博物館
交流センター
〒525-0001　草津市下物1091
TEL 077-568-4811（代）FAX 077-568-4850
Email:freporter@biwahaku.jp